

群馬県立桐生工業高等学校

(全日制)

学校評価一覧表

(令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価 達成度			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1 生徒の85%以上が、各教科の特色を活かした教育活動に満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業や少人数指導、授業改善を効果的に実施する。 学校外の機関（企業や大学等）と連携し、特色ある教育活動を行う。 地域貢献、地域交流を積極的に推進する。 生徒会、委員会、部活動等を活性化させ、生徒の自主的な活動を支援する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケート結果から94.1%の生徒が少人数指導や学校外の機関と連携した授業に満足していると回答している。引き続き、各教科の特色を活かした教育活動を行っていき、生徒が満足する教科活動を模索していきたい。 生徒のアンケート結果から84.5%の生徒が「自分の学校が好きだ」と回答しており、引き続き「好きだ」と感じられるような教育活動を実践していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観では、生徒は積極的に参加している。工業の実習では、生徒は積極的に参加している。 家庭でも、授業の様子を生徒が話してくれる場面が多い。 地域交流を積極的に行っており、今後も地域と学校で連携して生徒を育てて欲しい。 学習成果発表会での生徒の取組はすばらしかった。
		2 生徒の80%以上が、自分の学校が好きだと感じている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に目標を持たせ、放課後などを利用し、資格取得、各種コンテストに向けた指導を実施する。 ジュニアマイスター顕彰へのチャレンジを推奨する。 	B	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	3 複数の資格取得、各種コンテスト等にチャレンジした生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に目標を持たせ、放課後などを利用し、資格取得、各種コンテストに向けた指導を実施する。 ジュニアマイスター顕彰へのチャレンジを推奨する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資格、各種コンテスト等に挑戦した生徒が83.4%いた。今年度も具体的数値目標を達成することができた。現状より向上させるには、資格取得のための設備の充実、今以上の指導者および生徒の学習時間の確保（部活動との両立）等の改善が必要である。 アンケートでは生徒の87.9%が学習端末を活用した学習指導に満足していると答えたため、満足度は高いと言える。一方で職員は54.3%と低く、職員間での活用による大きな差があることが分かった。学校全体での活用を推進していくことが今後の課題である。 職員アンケートの結果からは91.3%の実現となっている。また、生徒のアンケート結果からも授業に満足している回答が多く、今後も生徒が主体的に学習を取り組める教科指導を実践していきたい。 アンケートでは生徒の95.7%・保護者の87.6%・職員の87.0%がそう感じている。生徒は学習の中で主体的に取り組み、自己の成長を感じているようだ。保護者・職員は、もっと高められるという期待があるので、生徒の美惑とは差があるだろうと推測する。次年度も今年度以上の成果が出るよう取り組みたい。 生徒のアンケート結果から90.5%の生徒が、進路目標に向けて、求められている学力を身に付けられていると回答している。引き続き、進路実現に向けた資格取得指導も含めた確かな学力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得取得は、工業高校において重要な取組である。生徒の成長や学習進度に合わせ、段階的に行い、成功体験を積み上げて国家資格にチャレンジしている。 建築甲子園全国優勝やものづくりコンテスト、和装デザインコンテストなどで優秀な成績を収めた。今後も生徒への指導に注力してほしい。 学習成果発表会では、昨年に比べて生徒の研究内容やプレゼンテーション力が向上している。課題研究の取組で、生徒の課題解決力や技術力が向上し、充足感が得られていると考えられる。 学習成果発表会での発表や運営など、生徒の様子から学校生活への満足感を感じることができた。
		4 貸与chromebookやBYOD1人1台端末等を活用した学習指導に満足していると感じている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科はもちろん、実習科目においても活用できるフォームやマイクロソフト365など具体的な使用方法を教師側に情報提供をする。 	A	A	A		
		5 職員の80%以上が、全ての生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、授業の中で計画的・継続的に実施し、生徒が目標を達成できるよう授業の工夫を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員を対象とした学校評価アンケートを実施して、授業改善に取り組む。 職員相互の授業参観等を行い、授業改善に取り組む。（学びのイノベーション） 	B	A	B		
		3 基礎的な技術の習得を充実させていますか。	6 実験・実習において、指導された技術が身についたと感じている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> レポート、作品等の学習による成果物を評価し、不十分な内容については再指導を行うなど、修得の向上に努める。 	A	A		
III 生徒の確かな学力を身につけていますか。	4 生徒は確かな学力を身につけていますか。	7 生徒の70%以上が、進路目標に向けて、確かな学力を身につけていると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が進路実現を達成するために必要とされる学習内容を明確にし支援することによって、学習意欲の向上を図る。 生徒の可能性を引き出すために、ICT等を使用した個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは生徒の95.7%・保護者の87.6%・職員の87.0%がそう感じている。生徒は学習の中で主体的に取り組み、自己の成長を感じているようだ。保護者・職員は、もっと高められるという期待があるので、生徒の美惑とは差があるだろうと推測する。次年度も今年度以上の成果が出るよう取り組みたい。 生徒のアンケート結果から90.5%の生徒が、進路目標に向けて、求められている学力を身に付けられていると回答している。引き続き、進路実現に向けた資格取得指導も含めた確かな学力を身に付けさせたい。 	
		8 学校生活に困難を抱える生徒を早期に発見し、適切な指導を行うことで不適応な状況に陥る生徒を出さないよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議・運営委員会において問題を抱える生徒に関する情報交換をする。 スクールカウンセラーの活用やアンケート調査にて、状況を正確に把握する。 定例会議（生徒指導、教育相談、学年会、学科会議）を通して分掌内・分掌間の共通理解を図るとともに、問題発生時の早期対応に努める。 	A	A	A		
IV 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	9 学校生活において、あいさつの励行、マナーの遵守ができていない生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 当番制による毎朝のあいさつ運動を行うとともに、遅刻防止を呼びかけ、生徒の意識向上を図る。 生活改善週間を設定し、生徒登校時及び始業前の指導を全職員で行う。 各クラスの担任・副担・学年付補助職員を設定し、組織での指導体制を定着化させる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の共通認識や連絡・報告・相談は91%と体制がとれており、情報交換やチーム対応も良好である。保護者への積極的なコミュニケーションも98%の職員が心掛けており良好である。生徒から職員やSCへの相談のしやすさは約72%と昨年より改善されている。いろいろなアンケートをオンライン化し、迅速な対応がなされている。今後はさらに相談しやすい雰囲気づくりをする。 職員による生徒の生活習慣改善への取組は96%で良好である。生徒の挨拶励行も96%で、保護者も91%が生徒のあいさつの習慣が身につけていると感じている。今年度は東門、南門および生徒玄関でのあいさつ指導も行っており、よききめ細かな指導を心がける。 避難訓練での火元を変えたり、いろいろな避難経路の理解を深めることができた。また、各災害の危険性をクラス案内し95.6%生徒の関心と理解を得られた。 交通安全教室、マナーアップ運動を通して安全教育を徹底する。 交通安全に関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。交通委員作成のハザードマップをもとに危険箇所を把握させる。 自転車整備点検を保護者にも依頼し家庭での交通安全意識を啓発する。 	
		10 防災避難訓練を年1回実施し、目的を理解し、安全管理や危機管理を考え、その重要性を感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火災対応の避難訓練だけでなく、土砂災害や浸水等気象災害も考える機会をつくる。 安全点検による危険、破損箇所を修繕していく。 	A	A	A		
		11 交通安全を心掛けている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、マナーアップ運動を通して安全教育を徹底する。 交通安全に関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。交通委員作成のハザードマップをもとに危険箇所を把握させる。 自転車整備点検を保護者にも依頼し家庭での交通安全意識を啓発する。 	A	A	A		
		12 いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	<ul style="list-style-type: none"> 桐工いじめ防止対策基本方針及び別表について職員、生徒、保護者に周知徹底し、未然防止に努める。 職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さないようにする。いじめを把握した際には、組織的な対応を図る。 月に1度の職員研修を実施し、いじめの正確な認知と組織的な対応について法律に基づいた知識を身につける。 	A	A	A		
		6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	13 生徒主体の生徒会行事が活発に行われ、生徒の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が中心となり、生徒主体の行事運営ができるようにする。 5年ぶりの開催となる大運動会を早期計画・準備により成功させる。 生徒会掲示板、ホームページ（生徒会ページ）を充実させる。 	A	A		A
7 積極的な生徒会活動が行われていますか。	14 部活動、愛好会等で活動している生徒が70%以上である。	15 一日の遅刻者・早退者・欠席者数が、全体の3%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 新入生の入部と、2・3年生の途中入部を促す。 部活動の試合結果などを、生徒会掲示板および学校ホームページを通じて報告する。 	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事に満足した生徒が86.6%であり一定の成果は残すことができた。特に5年ぶりの開催となった大運動会は早期の計画・準備により無事に開催することができた。次年度はより充実した行事とする施策を考えるとともに、生徒主体の活動ができるように働きかけていきたい。 部活動の入部率が60%と前年より約10%増加した。ただ目標数値には届いておらず新入生歓迎会や各部の広報活動をより充実させ部活動の意義や魅力を発信していきたい。 一日の遅刻者・早退者・欠席者数が、全体の約1%であり目標達成である。92%の生徒が遅刻・早退・欠席防止に積極的に取り組む。職員や保護者ともに意識が高く、今後も継続して防止に努めていきたい。 	
		16 体力向上、健康増進に取り組んでいる生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席、早退者への家庭連絡を徹底し、保護者の理解と協力を得る。 遅刻の多い生徒との面談を実施し、本人の意識を改善するよう努める。 不登校傾向の生徒に対しては、教育相談係、スクールカウンセラーと担任等が協力して組織的な対応をする。 	A	A	A		
		17 保健だよりについて、健康的な生活に役立っている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や部活動、行事を通して生徒自らが体力向上、健康増進を図るよう促す。 生徒会や生徒保健委員会、学校医等と連携し生徒の健康意識を高める工夫をする。 健康観察を定期的に発信し、感染症予防の意識を高める。 色彩や配列を工夫し、見やすくわかりやすい内容を心掛ける事により、生徒の健康意識を高める。 生徒保健委員が保健だよりの作成を行う。 	A	A	A		

羅 針 盤			方 策	点検・評価 達成度			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしている	9 計画的な指導を行っていますか。	18 進路講話や進路ガイダンスが進路選択に役立つと思う生徒や保護者、職員が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 進路講話は、学年進行に従いながら生徒の発達段階に即した内容を提供できるよう心掛ける。各学年・業者と内容を検討し、生徒自らが考え、行動し、進路決定ができるような指導を模索する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> あてはまる、だいたいあてはまるがそれぞれ約90%であった。生徒が自ら調べてみたいという気持ちを持たせることが重要であると感じた。企業や上級学校に対する理解を広げるとともに、入学後の早い段階から進路先の研究を進めようとする意識が高まるよう、関係機関との連携を強化する。 今年度はコロナ禍後ということで全科の2年生でインターンシップを実施できた。来年も実施したい。 アンケートでは83.5%の生徒がそう感じている。協力企業等の制限や、学科の専門性に興味を持たない生徒もいるのでこの数値は高いと評価できる。次年度はさらに学びが得られるように、環境整備を進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業高校として就職、進学どちらにも対応し、きめ細かい進路指導を行っている。今後も継続してほしい。 地域と連携した取組をたくさん行っており、インターンシップもその中の一つである。受け入れをしてくれる企業を探すことも多変であると思うが、地域と連携して生徒の職業観等を養ってもらいたい。 これらの活動が、地域企業との信頼関係を育み、企業の生徒募集・採用に繋がっている。求人数は今年度もたいへん多いと聞いた。
	10 適切な勤労観・職業観を育てていますか。	19 インターンシップを実施する科が100%である。 20 インターンシップに参加した生徒のうち学びがあったと感じる生徒が、90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に企業と連携しインターンシップ受入先を確保する。 生徒とインターンシップの受け入れ先のマッチングに配慮する。 事前、事後指導をしっかり行い、インターンシップの目的や意義を確実に理解させる。 実施できなかった生徒に対しては代替指導し、その成果について検証する。 	A	A	A		
	11 適切な進路情報を提供していますか。	21 進路指導部が発信する最新の進路情報を90%以上の生徒・保護者が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 情報過多に陥らぬよう他部署からの情報発信の量にも気を配りながら、Classroomやメール連絡網などを通して、進路情報の発信も随時行っていく。 	B	B	B		
	12 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	22 具体的な進路希望先が挙げられ、進路実現までの手順と準備について十分理解し、実現に向けて最善を尽くしていると感じている生徒や保護者、職員が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 進路スケジュールを生徒がきちんと把握し、いつまでに何をすべきかなど、その都度自己点検できるよう、HRや行事等において様々な働きかけを行う。結果として早い時期から進路実現に向けた取組を始めようとする意識が高まるような指導を模索する。 	B	B	B		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	13 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	23 本校の教育活動について、保護者や家庭の方々の70%以上が関心を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動や成果等の情報発信を強化し、ホームページの充実を図る。 学校行事の様子などを迅速にアップロードする。 中学生をより強く意識したコンテンツのアップロードを行う。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによって学校の様子が分かりやすく感じる割合が、生徒87.4%、保護者81.4%であった。引き続き、学校行事等の様子をタイムリーにアップしていく。 90.1%が満足しており目標値に到達した。次年度に引き継ぎたい。 5月のPTA総会からはじまる通常の行事に加え、10月の東毛地区PTA指導者研究集会は、東毛地区全24校が参加する一大イベントの幹事校としての役割があった。本部役員、学年委員、そして教職員が一体となり大会の成功に繋がれたことは高く評価できるものである。次年度も様々な取り組みを計画しているが、強い絆の下に一つ一つ確実に達成していきたい。 今年度は、2学年全ての学科、コースでインターンシップを実施することができた。ほとんどの生徒が、学びが多く有意義な経験であったと考えている。学校行事については、生徒が主体的に取り組める場面をさらに増やし、生徒の成長を促したい。 	
		24 授業公開（2学期実施予定）に満足できるが60%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果を授業改善に生かすとともに、授業公開の実施時期や方法についても検討を加える。 	A	A	A		
		25 PTA総会やマナーアップ運動などの行事や企画等に参加する保護者割合が50%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭等の生徒会行事や秋の地区研究大会など保護者に情報発信を適宜行い、参加者を増やす取り組みを行う。昨年度大いに盛り上げた文化祭（工誕祭）の余韻を引き継ぎ、楽しく有意義な学校行事等をしっかり計画する。 	A	A	A		
		26 学習活動や学校行事に、主体的取り組むことができた生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活用し、専門学科講師授業やインターンシップを実施するなどの学習活動を充実させる。また、学校行事等を活性化させることで、主体的に考え、判断し、行動できる人材の育成を図る。 	A	A	A		
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した指導を行っていますか。	27 貸与chromebookやBYODで1人1台端末を活用している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 貸与chromebookやBYODで1人1台端末を活用し、調べ学習や学習課題の提出の手段としている。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科別使用方法は異なるが、活発な使用が行われている。 アンケート、連絡事項、提出課題等の活用が増加している。 	
	15 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	28 貸与chromebookやBYODで1人1台端末を使いアンケートや授業の課題提出等にて活用している生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 貸与chromebookやBYOD1人1台端末等でアンケートなどの回収や課題提出において活用し、集計の省力化や用紙の節約を図る。 	A	A	A		